

大津 エンパワ ねっと通信



〒520-2194

滋賀県大津市瀬田大江町横谷1-5

龍谷大学瀬田キャンパス内

大津エンパワねっとオフィス(2-202教室)

TEL:077-543-7691 FAX:077-543-7615

【ホームページ】

<http://www.soc.ryukoku.ac.jp/gp/index.html>

■ごあいさつ

「大津エンパワねっと」いよいよ始動です。これは、大津を舞台に、地域の方々と学生が地域で出会い、様々な交流や活動を展開する新たな教育プログラムです。社会学部としてはこれまでの教育の枠組みを超えるチャレンジ、地域からすれば大学との新しい関係を築くものになるのではないのでしょうか。4学科の垣根を超えて、大学と地域の垣根を超えて、年齢を超えて、価値観を超えて・・・学生と地域の方々が互いに智恵をしぼり、協力しながら、新たな取り組みを生み出していきたいものです。地域力×学生力が無限の可能性を持っていることを信じて、しっかりと取り組んでいきたいと思えます。

龍谷大学 社会学部長 長上 深雪

エンパワねっとNEWS

町家キャンパス「龍龍」オープン!



町家キャンパス「龍龍(ロンロン)」記念式典でのテープカット

2007年12月16日、「大津エンパワねっと」の中央学区での活動拠点となる町家キャンパス「龍龍」(ロンロン)が、正式にオープンしました。午後2時から開かれた記念式典には、地元で地域活性化のための活動に取り組んでいる「大津まちなか元気回復委員会」の皆さんや地元町内会の皆さん、大津祭の伝統を守り続けている「大津祭曳山連盟」の皆さんなどにご参加いただき、「龍龍」のスタートをお祝いしていただきました。

龍谷大学の若原道昭学長は、「エンパワねっとは地域の皆さんと学生がともに考え、ともに行動していくことができる環境を地道に整えようという考え方が最大の特徴。この町家キャンパスを拠点に、龍谷大学としての姿勢を示していきたい」と述べました。町家の借り上げにあたっ

てご仲介いただいた大津市の目片 信市長は、「まちの活性化には若者が定着してくれることが非常に重要。龍谷大学が自ら求めて地域に視野を広げてくれることは、まことに時宜を得た取り組みだ」と評価されました。

式典後、佐藤 賢大津市副市長と若原道昭学長、長上深雪社会学部長が、地域力と学生力の融合について公開座談会を開きました。参加者の皆さんは熱心に聞き入っていました。その詳細については、「大津エンパワねっと」のホームページでも近日に報告したいと思います。

ここに注目!!



町家キャンパスの表札や家具はほとんどが福祉工学担当の塩見さん(写真中)の手作り



近所のお寺の方が使わなくなった湯呑とポットをくださいました。



町家キャンパスのシンボルとなる看板作成中!

いろいろな方々の
支えがあって
素敵な式典に
なったんだね!!



学内に「大津エンパワねっと・オフィス」(瀬田地区オフィス) 開設!



大津エンパワねっと推進会議の様子

「大津エンパワねっと構想」を進めていくためには、社会学部4学科の教員、職員、学生、そして地域で活動している住民の方々が、ともに課題や夢を共有し、具体策を話し合っていくための「空間」がとても大切になります。

そこで、このたび龍谷大学瀬田キャンパス内に、瀬田地区の拠点を開設しました。(中央地区は、町家キャンパス龍龍を開設<1面>)。なお、この学内拠点は、「大津エンパワねっと構想」全体のオフィスも兼ねています。

瀬田地区の場合は、瀬田東市民センターも利用させて頂けることになっており、学生の居場所である「大学内オフィス」と地域住民になじみの深い「市民センター」という二つの拠点の性格を活かしながら、おもしろい取り組みを展開し

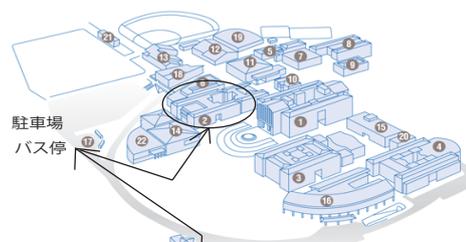
ていけそうです。

オフィスは、2号館2階の一室で、学生が使う教室にも近く、また社会学部教員の研究室も3階にあるため、誰でも行きやすい場所です。

まだ、印刷機などの備品のみで殺風景ですが、これからここに、大津市内の様々な資料や情報が蓄積されていくはずで。そして、たくさんの学生や教職員、地域住民が集う声が聞こえてくるはずで。「地域エンパワねっと実習」が始まる2008年の秋には、さぞ、にぎやかな拠点になっていることでしょう。

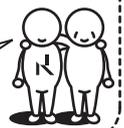
なお、2月18日(月)にささやかな開所式を行う予定です。

龍谷大学キャンパス内 瀬田オフィスマップ



バス停より噴水方面へ
噴水に向かって左側の建物が2号館です。自動ドア入ってすぐの階段を上りエレベータ方面へ進み、つきあたりを右へ曲がって2つ目の部屋が大津エンパワねっとオフィス(2-202)です。

また、オフィスには専任のスタッフがあります。「大津エンパワねっと」でわからないことがあれば、いつでも質問に来てくださいねっ!



「大津エンパワねっと」プロジェクトには、報道関係者からも高い関心が寄せられています。プロジェクト立ち上げからここまでの報道状況を報告します。

| | |
|----------------|--|
| 2007年 7月30日 | 文部科学省が2007年度「現代GP」に「大津エンパワねっと構想」を採択 |
| 12月5日 | 大津市が本学「大津エンパワねっと構想」の拠点として、中央地区の町家を借り上げを発表。 |
| 12月11日 | 大津エンパワねっとを進める会・中央地区を発足 |
| 2008年 1月21日 | 大津エンパワねっとを進める会・瀬田地区(瀬田東)を発足 |

- ・京都新聞 2007年7月31日付朝刊「地域貢献型課程などに財政支援」
- ・京都新聞 2007年12月6日付朝刊「龍谷大、大津に『町家キャンパス』／学生、住民と地域の課題解決へ」
- ・中日新聞 2007年12月7日付朝刊「龍谷大が町家キャンパス 築100年家屋を活用」
- ・京都新聞 2007年12月15日付朝刊「『地域と学ぶ』拠点に／大津、龍大が町家キャンパス公開」
- ・読売新聞 2007年12月15日付朝刊「龍谷大社会学部 大津に新キャンパス」等

このほか、NHK 大津放送局、びわ湖放送が12月14日夕方のニュース番組で取り上げました。

「大学と地域をつなぐ特別講義1」とは大津市の各分野で活躍しているの方々をお招きして講義いただくというもの。講義のテーマは歴史、産業、子育て、福祉とさまざま。さまざまな視点から大津について知ることができるのがこの講義のメリットです。受講生たちは真剣なまなざしで話に耳を傾け、時折笑いもあるとてもなごやかな講義となりました。ここでは講義のハイライトをお知らせします。

2007. 10. 30

1



講師の木津 勝氏(中央)

大津市歴史博物館で学芸員・木津勝さんをお招きして、「フィールドは、大津一街を学ぶ・街から学ぶ」をテーマに、博物館に収蔵されている膨大な写真資料をもとに、「大津の近現代の歩み」をたどりました。賑わいにあふれる浜大津の様子、かつては畑だった瀬田駅前の様子などを拝見しながら、今からは想像できない大津の過去の姿を知ることができました。

2007. 11. 19

2



講師の上林氏(中央)、山本氏(右)

テーマは「瀬田の産業」。瀬田商工会前事務局長の上林賢一さん、蒸着フィルム大手・サイチ工業社長の山本彰さんを招きました。上林さんは、地元産業の歴史から中小企業の未来まで幅広い内容。山本さんは、金銀糸製造からハイテクに展開してきた自社の歴史を語っていただきました。

2007. 11. 30

3



講師の西田久美子氏

「あなたも・・・私も・・・子育ての仲間の一人に!!」と題する大津市子育て総合支援センターゆめっここの西田さんのお話。大津市における子育ての現状や「ゆめっこ」が果たしている役割を通して地域づくりの課題を考えました。400名を超える学生を交えてのワークショップを通して、地域づくりを具体的に考えていくことの大事さを学びました。

2007. 12. 13

4



講師の山口浩次氏

講師は、龍谷大学の卒業生でもある大津市社会福祉協議会の山口浩次さん。「大津市の社会福祉協議会で働いて～人と人のコミュニケーションを豊かに～」と題し、音楽と映像と魅力的なお話で、美しく素敵な大津のまちと、その大津で静かに起こっている貧困、孤独死、虐待、権利侵害などの現実について話して頂きました。

大 大友信勝

- ①社会福祉学原論
- ②戦後の経済成長に役立つ労働力に価値があるという社会に、重い障害をもっている子どもたちがずっと人間らしい心と生き方をしている。「この子らを世の光に」と「福祉の思想」を打ちだした街、それが大津です。
- ③生命と尊厳の重さにわけいり、主体性を磨きあおう

津 長上深雪

- ①社会福祉論
- ②「答えは常に現場にある」。社会福祉は人々の暮らしやいのちの問題を考える学問です。現場に足を運ぶことが基本。大津エンパワねっとはそれを実行するプログラム。ワクワクドキドキしますね。
- ③人々の暮らしの息づかいや深みを感じ取ろう！

工 金子龍太郎

- ①児童福祉、発達心理
- ②大津市に永住する覚悟をした中央地区の住民として、何としても街を活性化して、乳児から高齢者までが住みやすく、幸せになれる町にしていきたいと切望しています。学生の皆さん！大津市民と協力して、色んな取り組みをして、学んでいきましょう。
- ③大津の街中に愛する対象を見つけよう！

工 小椋博

- ①地域スポーツ論
スポーツ社会学
- ②③大津は私の生まれ故郷で、高等学校卒業まで過ごしました。その後、40年間の外での生活の末、瀬田・龍谷大学で働くようになり、また大津に暮らすようになりました。この間、大津は暮らしやすくなったのか、このプロジェクトを通して考えたいと思います。

大津エンパワねっと担当教授に
この講義への熱い思いを語って
いただきました！

- ①専門科目
- ②大津エンパワねっとへの意気込み
- ③一言コメント

ねっし 脇田健一

- ①地域社会論
- ②4年前、社会学部に赴任してきた当初から、大学の地元、大津に強い関心をもってきました。「大津エンパワねっと」のプログラムを通して、学生たちとともに本格的に地域づくりに参加できるので、とても喜んでいます。
- ③地域づくりは、「小さなことからコツコツと」 (!!)

フ 筒井のり子

- ①地域福祉論
ボランティア・市民活動論
- ②地域福祉学科の学生がずっと言っていました。「もっと地域福祉の実践に参加したい。住民や専門職の方から直に学びたい」。これが、社会学部全体で実現できることになり、感無量です。
- ③一緒に、動き、考え、感動しましょう！

パ 津島昌弘

- ①犯罪社会学
アンケート調査
- ②エンパワねっとを通じて、私も誰かに元気をあげたりもらいたいと思っています。プログラムは始まったばかりで、それは未知数。これからのネットワークのひろがりや成長を期待しています。
- ③「大津に龍大あり、龍大は大津にあり」が目標です。

私たちと一緒に大津を盛り上げてくれるボランティアスタッフを
募集しています。

まちづくりに興味のある人、NPO活動やボランティアに関心のある人、イベント運営に興味のある人、大津がとにかく好きな人、、、などなど。回生、資格は関係ありません。少しでも興味があるという人は話だけでも聞きにきてくださいね。

一緒にゼロから作り上げる喜びを共有しましょう！！

【お問い合わせ】
龍谷大学瀬田キャンパス
大津エンパワねっとオフィス（2-202）
TEL：077-543-7691

